

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2月2日～2月8日)

2021年2月10日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、全ベラルーシ国民会議に向けた準備会合に出席。(2/2,2/8)
- チハノフスカヤ元候補、ジュリー・フィッシャー次期駐ベラルーシ米国大使と会談。(2/4)
- 2021年1月を通じ、ベラルーシ金・外貨準備高、2億6500ドル(約3.5%)減少。(2/5)

【ルカシェンコ大統領動静】

●全ベラルーシ国民会議実施に向けた準備会合に出席

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・本会議は、我が国にとって最重要の出来事であり、最高水準において実施する必要がある。
- ・代表者の受け入れ準備は万端であろうか。我が国の市民社会、社会団体、政党、労働団体等、全ての地方・団体の代表者が首都を訪ねてくる。地方から来た方々が、自身の家に着いたと感じるように、安全や快適な条件を保証する必要がある。
- ・ここには、様々な年代、職業、社会ステータスの者が集まる。彼らには、数千、数百万のベラルーシ国民がついている。国民が彼らを選んだのであり、我々は彼らの声を聞く必要がある。
- ・国から逃げた者、反体制派は、国民会議に招待されないことを嘆き、同会議を違法である、と言っていることに関して。まず、我々はこの国に住んでいる者から代表者を選出している。国外からはお客様しか招待しない。また、彼らは、国民会議のボイコットを呼びかけており、であれば泣いているのではなく、ボイコットをすればよい。
- ・国民会議前に、もう一度人々を心配させている問題について詳細に検討すべきであろう。各州大統領全権代表や知事の仕事を高く評価している。各州において、全ベラルーシ国民会議に参加予定となっている代表者が集まり、その問題について議論していた。全ベラルーシ国民会議では2500名の代表と賓客が参加する予定であり、全員が全員その場で発言できるわけではない。そのため、事前にそれらの問題を

協議し、

注力し、全ベラルーシ国民会議の審議にかけるのは正しい手法である。

・国民は様々な問題に関心を寄せているが、最も重要なのは、経済である。経済は、価格形成、住宅公共サービス料金、雇用、給与など、国民の日々の生活に関わっている。

(2/2 大統領公式ホームページ)

●ジュガーノフ露共産党党首と電話会談。

本電話会談は、全ベラルーシ国民会議に向け実施された。ジュガーノフ氏は、同会議に招待されている。

(2/3 大統領公式ホームページ)

●ユスポフ駐ベラルーシ・ウズベキスタン大使と会談 本会談は、ユスポフ大使の任期満了に伴い実施された。

(2/4 大統領公式ホームページ)

●全ベラルーシ国民会議実施に向けた準備会合に出席

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ここ一ヶ月、ベラルーシにおいて2度の社会アンケートが実施され、約1万名が参加した。通常の10倍もの人が参加したことになる。
- ・第一段階として、我々は都市部住民のみに照準を絞った。企業は、(その態度において)中庸なレベルを対象とした。つまり、政権に最も忠実というわけでもなく、最も反政府的だというわけでもない企業である。
- ・第二段階は、先週実施されたが、そこでは、農村が

ら地方、首都ミンスクに至るまで全ての国民に対して行われた。

・現在、結果は集計中であるが、これは私にとって非常に重要である。国民の奥深くにある気持ちを知らずして、全ベラルーシ国民会議において発表することや何かを計画することは非常に難しい。

・本社会アンケートの客観性は非常に高い。外国の社会学センターも本アンケート実施に参加した。

(2/8 大統領公式ホームページ)

【外交】

●ジュリー・フィッシャー次期駐ベラルーシ米国大使、プシダチ・ポーランド外務次官と会談し、ベラルーシ国民に対する同政府による暴力を許容しないと声明。

(2/3 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、ボリスフ露副首相と会談し、産業政策に関する相互協力について合意。

(2/3 ベラパン通信)

●シューベル駐ベラルーシ EU 大使、対ベラルーシ政策に関し、発言。

発言概要は以下の通り。

・ベラルーシの現状により、EU は同国に対し提供してきた支援について再検討することとなった。約半分の支援を打ち切りとせざるを得なくなった。

・若者、環境、中小企業支援、地方創生、市民社会、独立系メディア等、非国営パートナーに向けた支援は継続される。

・EU では、ベラルーシのいくつかの治安部隊の残虐さは既に知られている。過度な暴力、性的暴力、拷問、死に至る残虐な行為は書類に残っている。

(2/4 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、マリポフ・キルギス首相と会談。

(2/4 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、カザフスタンで開催されたデジタル・アルマティ・フォーラム 2021 に出席。

(2/5 ベラパン通信)

●ボレル EU 外務・安全保障政策上級代表及びバルヘリ欧州近隣政策・拡大交渉委員、ベラルーシ政府に、民主的将来の保障、基本的人権と自由の尊重を要請する共同宣言を発表。

(2/5 ベラパン通信)

【経済】

●オストロヴェツ原発、初めて発電量 10 億 kWh を突破。

(2/2 ベラパン通信)

●2020 年のミンスク市貿易高、2019 年対比 23%減少。

(2/3 ベラパン通信)

●エネルギー省、「オストロヴェツ原発で発電された電力は、リトアニアではなく、ベラルーシ国内の電力需要をまかなうためにある。」と声明。

(2/4 ベラパン通信)

●2021 年 1 月、ベラルーシ金・外貨準備高、2 億 6500 ドル(約 3.5%)減少。

(2/5 ベラパン通信)

●ベラルーシのカリ肥料の買い付けをおこなっているノルウェー企業 Yara international 社は、「ベラルーシとの国際連帯の日(当館注:チハノフスカヤ元候補が開始した 228 名に上る政治犯釈放と弾圧を受けた全ての人を支援するためのイニシアチブ。2 月 7 日。)」を支持。

(2/7 ベラパン通信)

●ガルノー・カナダ外相、「ベラルーシとの国際連帯の日」を支持し、ベラルーシ市民社会への支援を目的に、1.76 百万米ドルを供与すると表明。

(2/7 ベラパン通信)

●デンマーク、アイルランド及びウクライナの外務大臣、ベラルーシ国民の支援に関する「ベラルーシとの国際連帯の日」への支援を表明。

(2/7 ベラパン通信)

●駐ベラルーシ EU 各国大使、ミンスク市内で政治犯や抗議運動最中に亡くなった市民の親族と面談。

(2/7 ベラパン通信)

●在ベラルーシ米国大使館、「ベラルーシとの国際連帯の日」に合わせ、民主化、自由、平等に向けベラルーシ国民への支持を表明。

(2/7 ベラパン通信)

●在ベラルーシ米国大使館、ベルサト通信記者 2 名の釈放を要請。

(2/8 ベラパン通信)

●ベラルーシ及びロシアが、2021 年食糧供給バランスに関する覚書を署名。

(2/8 ベラパン通信)

【内政】

●ピニエヴィチ保健大臣、ベラルーシにおける新型コロナウイルス感染状況について閣僚会議で報告。

ピニエヴィチ保健大臣の発言概要は以下の通り。

・ベラルーシ、ロシアにおいて新型コロナウイルス感染状況が沈静化しつつあることを確認している。

・本日、ベラルーシ政府内の会議において、新型コロナウイルス対策ワクチンに関するロシアとの相互協力について議論された。スプートニク V のみならず、他のロシア製ワクチンについて議論が及んだ。

・モバイルアプリ「COVID-19 なしで旅行する」を活用した国境間移動、WHO やその他国際機関の枠組みにおける露・ベラルーシの相互協力についても議論があった。

(2/3 ベラパン通信)

【抗議勢力側の動き】

●チハノフスカヤ元候補、ジュリー・フィッシャー次期駐ベラルーシ米国大使と会談。

両者は、暴力の停止と、政治犯釈放、ベラルーシにおける人権規定モスクワメカニズムをどのように実現するかを協議した。チハノフスカヤ元候補は、米国に対しブロガーや記者等の釈放に向けた支援、ルカシェンコの財布となっている企業や団体に対する制裁における EU や英国、カナダとの協力を要請した。

(2/4 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、ビデオ形式で、全ベラルーシ国民会議に関し発言。

発言要旨は以下の通り。

・全ベラルーシ「ノーメンクラトゥーラ」会議は、あたかも、国民の意思を表現しているとしている。

・しかし、彼らは誰を国民だと思っているのであろうか。あなた方は、同会議に参加するよう提案を受けたであらうか。あるいは、誰か個人的にそこに参加する人を知っているであらうか。参加者の一部には、自身の参加をマスメディアで初めて知ったという者もいる。

・2700 名(全ベラルーシ国民会議の参加者数)は、国にとって意味のある決定を行うベラルーシ人の確認された数ではないし、各地域、都市、村の代表者の合計数でもない。これは、単に共和国宮殿の収容人数でしかない。政権が強制的に集めることができる人数でしかない。

(2/5 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補が、リデル欧州安全保障協力機構東欧担当及びモンテラ議長とオンライン会談し、ベラルーシの現状を説明。

(2/8 ベラパン通信)

(了)